

平成19年4月からひとつの学校給食に 一体感のある食育推進を目指して

1日も早い「新」名寄市」の一体感を

平成18年3月の新「名寄市」スタートから10カ月になります。

合併協議会での様々な協議を通じて「新しい名寄市の姿」を創り上げてきましたが、住民サービスや負担水準などは、市民の生活に支障が起らないように、新「名寄市」の一体感を確保することを重点に調整し、大きく差のあるものは期間を置いて統一することになりました。

合併することで財政状況が好転するのではなく、行財政改革と事業コスト・効果の分析を進めながらの作業になります。

合併協議の中では、都市計画税や法人市民税の取扱いをはじめ、国民健康保険事業、介護保険事業、保育料、上下水道料など、数多くの項目で「新市において調整し、合併後に統合する」ことになっていて、学校給食センターの統合についても、新市の一体感のためにひとつひとつの課題に知恵を出し合っって話し合いが重ねられてきました。

学校給食センターをひとつに

子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけ、健全な心身を培い、豊かな人間性を育てることを目的に平成17年には「食育基本法」が施行されました。

また、食育をテーマに、市立大学、名寄農業高校、学校給食センターの三者が連携して生産から消費までの食育を幅広く推進する動

合併協議での確認事項

第4回の合併協議会で協議第21号として平成16年11月9日に提案され同日確認された。

【各種事務事業の取扱いについて】

教育部会 事務機構及び組織の取扱い
学校給食センター

- (1)合併後に風連町学校給食センターを名寄市学校給食センターに統合する
- (2)組織運営・職員配置・配送方法・地場産品の活用等については新市において調整する。

きもあつて、ひとつの自治体として統一した食育推進の観点から、風連と名寄地区の異なった献立をひとつにする必要がありました。もつひとつの背景として、風連学校給食センターの老朽化がありました。

風連学校給食センターの建設は昭和48年で、ウェット方式と施設の老朽化に伴う衛生面の低下があることや、維持管理費のコストが高くなるのが避けられない状況がありました。

合併効果という意味合いからも、同じ役割の二つの学校給食センターをひとつにすることで、事業コストを軽くすることは重要な課題で、平成16年11月には風連学校給食センターを名寄市学校給食センターへ統合することが合併協議の中で確認されています。

平成4年から稼働した名寄市学校給食センターが、給食能力4千食で整備された施設だったことも二つの学校給食センターをひとつにする大きな要因になっていました。

学校給食センター経費

維持管理・運営事業費

【平成17年度決算】

名寄	風連	合計
59,064千円	23,471千円	82,535千円

【平成18年度当初予算】

名寄	風連	合計
62,278千円	25,463千円	87,741千円

人件費、調理用光熱水費や施設の維持管理費、運営費などの経費で合併効果が期待されています。



名寄市学校給食センター



一体感と融和のために…話し合いの経過

名寄・風連合同学校給食会の第1回理事会が平成18年7月19日に開かれました。学校給食部会、献立部会の二専門部会を設け検討課題を洗い出すことが確認され、学校給食センターのあり方を話し合っていくことになりました。

学校給食部会では、給食費の単価を統一するほか、学校給食会の運営、給食費の徴収方法などが話し合われました。

献立部会では、地場産品・食材の取り扱い、献立と行事食、アレルギー給食の取り扱い、適温給

食、食育の推進などについて話し合われました。

同年11月1日に行われた名寄・風連合同学校給食会の第4回理事会で、「名寄・風連学校給食会統合に伴う答申報告書」として統合に向けてまとめられた素案が承認されました。

その結果を受けて名寄、風連それぞれで学校給食会を臨時総会が開催され、学校給食センターの統合が承認されました。

改修工事の内容

両センターの統合に伴う改修工事は、平成18年9月の市議会定例会で請負工事などに関する補正予算を行い、学校運営に支障をきたさない冬休み期間中の12月から約8千万円の事業費をかけて行われました。現在運営している風連学校給食センターの500食分を名寄市学校給食センターで作ることから、同センター車庫の一部を食器などの消毒保管庫に改修。同時に、劣化の著しいピット内の配管取り換え工事と屋上防水シートへの張替工事が行われました。また、規格が違う風連地区所有の食器と食缶は、名寄地区と同じものに買い替えます。

平成19年4月からの学校給食

新市のスタートにあたる平成18年は、新市の方向をひとつひとつ決めていく重要な年になります。平成19年4月に、学校給食センターがひとつになるためのひとつひとつの課題が話し合われ、新たな学校給食が始まります。ひとつになった献立内容

従来どおり米飯、魚を基本にした日本型給食です。使用する食材料は地場産のものを活用することで、安全性を図りながら栄養バランスにも配慮した献立メニューを、専門の栄養士が計画します。

学校給食費の単価				
区分	名寄	風連	新単価	
小学校1～2年生	231円	235円	231円	
小学校3～4年生	234円	235円	233円	
小学校5～6年生	239円	235円	235円	
中学校	279円	275円	275円	
給食形態：完全給食、週5日				
	名寄		風連	
	年間208日間		約190日間	
給食数：	2,994食/日		480食/日	
	435,727食/年		90,317食/年	

米飯 週3・5回
 麺類 週1・0回
 パン 週0・5回
 を基本として行います。
 入学・卒業祝いや季節の行事食（おはぎ、ケーキ、うぐいすもち・さくらもちなど）は継続していきます。

アレルギー給食の実施は、現行の名寄市学校給食センターの実施基準で、医師の診断に基づいてアレルギーと診断を受けた児童・生徒に対して、学校・教育委員会・家庭の三者が連携をとりながら行います。

学校給食会の運営について
 学校給食事業運営は、現行どおり私会計で運営し、保護者が負担する給食費は全て食材費に充てます。
 学校給食センター統合後に、学校・PTA・学校給食センターの三者が一体になって対策委員会を設置して、給食費の未納防止の徹底を図ります。
 本年度中に名寄市学校給食センターの改修工事が行われ、平成19年4月から一体感のある食育推進を目指した学校給食が始まります。